

## 令和4年度永年勤続医療従事者表彰式 309名が表彰される



理事 稲富 仁

去る11月30日（水）ダブルツリー by ヒルトン那覇首里城に於いて、令和4年度永年勤続医療従事者表彰式を行った。

同表彰式は会員が開設する医療機関及び医師会に20年勤務する医療従事者に対して行うもので、新型コロナウイルス感染症の影響により、3年ぶりの開催となった。

本来なら、20年勤続された全員に対し、これまでの功績を称え、ご苦勞をねぎらうところではあるが、新型コロナウイルス感染症対策の観点から、各施設より被表彰者代表1名、随行者1名のみ参加とし、当日は、来賓に糸数公沖縄県保健医療部長のご臨席の下、36施設より60名が参加され、36名の方々が表彰された。

始めに、安里哲好沖縄県医師会長から受賞者へ概ね以下のとおり激励の挨拶があった。

「今回受賞される皆様につきましては、一言で20年と言いましても、平坦な道のりではなかったと思います。その間、ご自身の努力はもちろん、ご家族や上司、同僚の皆様の協力により、それぞれの職務に精勵され、職責を全うしてこられたものと思います。これまで医療や福祉に対し、献身的に活動されたことに深く敬意

を表し、改めて感謝申し上げます。

ご承知のとおり、我が国の高齢化は世界の中でも急速に進行し、医療ニーズが多様化しております。それに伴い、医療や介護に関わる専門職の活躍と医療・介護サービスにおける質の向上が求められております。

厚生労働省では、2025年を目途に、高齢者の尊厳の保持と自立生活へのサポートによって、より自分らしい暮らしができるための「地域包括ケアシステム」の構築を推進しております。

とりわけ、患者のニーズに応じて、より良い医療・介護サービスを提供していくためには、医師や看護師はもとより、他のコメディカルが各職種の専門性を十分に発揮しながら、相互の信頼関係の下に密接に連携する、いわゆる「多職種連携」が重要となっております。

将来、できる限り住み慣れた地域で生活が継続できるよう、我々医療関係職種が協力し、医療と介護の連携強化や、質の高い在宅医療の推進に取り組んでいかなければなりません。

幸いにして、今回表彰を受けられる皆様は、非常に経験豊かな方ばかりでございます。永年



培った経験や知識、技術を活かし、地域に根差す医療職者として、良質な医療の提供に努め、引き続き、本県の保健医療福祉の向上にご尽力を賜りたいと思います。」

引き続き、安里会長より各施設の代表者へ表彰状の授与が行われた。

その後、糸数沖縄県保健医療部長より、概ね以下のとおり来賓の挨拶があった。

「永年勤続の表彰を受けられました皆様、誠におめでとうございます。

長年に亘り、医療の現場において職務に精励され、県民の健康を守り続けていただいていることに心より感謝申し上げます。

職務を全うする中では、大変な御苦労があったものと拝察いたします。特に令和2年以降は、新型コロナウイルス感染症の長期流行という厳しい状況の中で皆様におかれましては、発熱外来、PCR検査、感染患者対応及びワクチン接種など、現場でご尽力いただいておりますことに、深く敬意を表します。

今後とも、これまでに培った経験を生かしながら、地域において指導的な役割を果たし、後進の模範的な存在でおられることを期待しております。

県では広範かつ継続的な医療の提供が必要な5疾病、5事業、在宅医療の充実及び医療従事者の養成・確保などに関する施策を定めた第7次沖縄県医療計画を推進し、地域医療、連携体制の確保に取り組むとともに、本年3月に策定した沖縄県循環器病対策推進計画を推進することにより、本県の循環器病の実情に応じた施策を展開し、本県の重要課題の一つである健康長寿復活、健康寿命の延伸に取り組む所存です。

本県の地域医療提供体制の確保及び健康寿命延伸の取組の推進にあたりましては、医療の現場でご活躍されている皆様との連携が必要不可欠なものと考えておりますので、なお一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、永年勤続医療従事者表彰を受けられました皆様のご健勝とご活躍、並びに沖縄県医

師会の御発展を祈念申し上げまして、お祝いの言葉といたします。」

引き続き、受賞者を代表し、安立医院看護師の西盛幸子さんから概ね以下のとおり謝辞が述べられた。

「永年勤続表彰という栄誉を頂き、晴れやかな気持ちであるとともに、身の引き締まる思いでいっぱいです。受賞者を代表して厚く御礼申し上げます。

安里哲好県医師会長をはじめ、多くの皆様からの温かいお言葉と、このような機会をいただきましたことは、大変喜ばしく光栄に存じます。

私は、長きにわたり透析医療に携わってきました。その中で患者さんとの出会いや別れ、また様々な困難を経験し心がくじかれることもありましたが、それでも続けてこられたのは、院長先生の後押しと諸先輩方に支えられたおかげです。

准看護師から正看護師へ、さらにフットケア指導士の認定を取ったことで現状に満足せず、挑戦する意欲を持つようになりました。

この場を借りて、支えてくれた方々へお礼を申し上げたいと思います。

今後も透析医療並びに患者さんの足を守るためのフットケアにも力を注ぎ、日々邁進していきたいと存じます。

最後に、沖縄県医師会の益々のご発展を心よりお祈り申し上げ代表の謝辞とさせていただきます。」

例年、表彰式終了後に引き続き懇親会を開催し、被表彰者の所属する施設長や同僚が多数参加し、受賞者の永年の労をねぎらっているが、今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染対策が困難なため中止となった。

3年ぶりの表彰式はかつての賑やかな表彰式より寂しい会になったが、被表彰者に直接労いや感謝の言葉をかけ、表彰状をお渡しすることが出来て大変良かったと思う。来年こそはいつも通り随行者も参加し、お花を渡したり写真を撮ったり、みんなで会食し、長年の職務の思い出話など楽しめるようになることを期待したい。